

インフォメーション・コーナー

会 告

○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	66
○2021年度農業農村工学会賞候補の推薦(再) 締切 10月31日	66
○新刊「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 排水」の発刊	67
○CPD 機構から重要なお知らせ(再)	68
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	68
○2021年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	69
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	70
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局	71
○第69回北海道支部研究発表会の開催(第1報) 発表申込締切 11月2日	72
○第75回中国四国支部講演会ならびに第44回地方講習会の開催(第3報) 発表申込締切 10月31日(予定)	73
○令和2年度九州沖縄支部大会の開催(第2報) 講演申込締切 10月28日	73
農業農村工学会論文集 内容紹介	75
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可) 一覧	77
学会記事	79

第88巻第10号予定

展望: 柵木 環

小特集: 高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術

報文: 転換畑における収量品質向上のための総合的な灌漑排水技術: 塚本康貴ほか

報文: ドリップ灌漑によるカキの品質向上と経済効果の検討: 岩田幸良ほか

報文: 水管理の違いが水稻の登熟期の水田水温・地温に与える影響: 光安麻里恵ほか

報文: 水管理省力化システムを用いた高品質・良食味米安定生産: 井上恵美ほか

報文: 水稻の登熟期の掛流し灌漑が水田の窒素環境に与える影響: 西田和弘ほか

報文: 情報通信技術を備えた圃場給水機による気候変動適応の取組: 坂田 賢ほか

報文: 水稻の高温・低温障害に対応した ICT 水管理技術の実証: 鈴木 翔ほか

技術リポート

北海道支部: 畑地帯における UAV レーザ測定の精度および有用性の検証: 匂坂 強ほか

東北支部: UAV 測量を活用した災害復旧計画の策定に関する実証調査: 佐々木 毅ほか

関東支部: 鴨川市耕地地すべり協会との連携による取組事例の紹介: 江澤航汰

京都支部: ICT を活用した水管理制御の指標に関する検討: 石川奈那ほか

中国四国支部: 二重鋼板工法を用いた六丁池改修工事: 井上隆司

九州沖縄支部: 川棚西部地区における法面崩壊対策事例: 中島勇太

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 11月(予定)	中国四国支部	第75回講演会・第44回地方講習会 ⓑ	—	Web形態	88巻5.8.9号
2020年 11月9~22日	東北支部	令和2年度総会・第62回研究発表会・ 第52回研修会・第42回地方講習会 ⓑ	—	Web形態	88巻6.7.8号
2020年11月 11, 12日	京都支部	第77回支部研究発表会 ⓑ	—	福井市	88巻4.6号
2020年11月 12~25日	九州沖縄支部	令和2年度支部大会 ⓑ	—	Web形態	88巻4.9号
2020年 11月18日~	関東支部	第71回支部大会 ⓑ	—	Web形態	88巻6.8号
2020年 12月15日	北海道支部	第69回研究発表会 ⓑ	—	Web形態	88巻9号

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2020年度の学生会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

- ③ ①, ②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進
 - ・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術
- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
 - ・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
 - ・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など
- ⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

2021年度農業農村工学会賞候補の推薦(再)

2021年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

締切は、2020年10月末日です。推薦書様式および授賞規程

は学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) をご参照ください。

2021年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績			
賞の対象期間	2015年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2019年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2018年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2015年10月から2020年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2010年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2015年10月から2020年9月までに発表した活動とする。	2018年10月から2020年9月までに発表した活動とする。	2015年10月から2020年9月までに発表した活動とする。	2015年10月から2020年9月までに発表したものとする。	2015年10月から2020年9月までに発表したものとする。	2018年10月から2020年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2020年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人	
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際学会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2021年度(第70回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2020年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

新刊「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 排水」の発刊

平成31年4月に制定された「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 排水」(農林水産省農村振興局編集)を2020年8月に発刊いたしました。

体裁：A4版345ページ

発行日：2020年8月5日

定価：2,000円＋税

図書の購入方法

I. 個人・法人の場合(賛助会員を除く)

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または

代金引換をご利用ください。

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。

振込口座番号：00160-8-47993 加入者名：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。

③ 代金引換：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailかFAXでお送りください。別途、代引手数料と送料の

実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書
を E-mail か FAX でお送りください。

III. 送料

1冊 200円, 2冊 400円, 3冊以上 600円

問合せ先 (公社) 農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

CPD 機構から重要なお知らせ (再)

農業農村工学会継続教育部



1. 2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版) は pdf の掲載となります

CPD 登録者様へのサービスとして、前年度分の「CPD 取得一覧表」について、紙媒体による発送(8月に途中経過版・11月に最終確定版)と、Web上のpdfでの掲載(11月の最終確定版のみ)をさせていただいていましたが、CPD 登録者様へのサービス向上と新型コロナウイルス感染防止による業務遅延を防ぐため、2020年8月に予定していた2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)の発送は行わず、Web上のpdf掲載に代えさせていただきます。なお、2019年度分「CPD 取得一覧表」(最終確定版)は従来通り11月に発送予定です。

前年度の 「CPD 取得一覧表」	これまで		2020年度	
	紙媒体発送	Web上 pdf	紙媒体発送	Web上 pdf
8月(途中経過版)	○	×	×	○
11月(最終確定版)	○	○	○	○

2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)が必要な方は、2020年8月以降に技術者継続教育機構のホームページ画面から各自、次の手順によりダウンロードをお願いいたします。

■ Webシステムを利用する > ⇒ Web利用メニュー画面へ > Web利用メニューへ > ログイン > ○ CPD取得一覧表のダウンロード > ○ 2019年度分一覧表 > ダウンロード

2. 前年度の CPD 記録の申請期限の変更について (2021年度より)

これまで、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の8月末日」としていましたが、多くのCPD登録者様から「前年度のCPD結果の確定を早くしてもらいたい」との要望があることから、2021年度より、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の6月末日」に変更し、前年度の審査結果の早期確定を図ります。2020年度記録の申請期限は「2021年6月30日」となりますので、研修受講や自己学習の実施後は、速やかにWeb登録をお願いします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例:学会誌9号掲載の問題は10月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録

(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2021年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2021年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含み景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第89巻（2021年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254 mm、四つ切りは254×305 mm、同ワイドは254×356 mm、A4は210×297 mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5 MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 2020年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第89巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2021年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

なお、投稿表・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

学会誌第 88, 89 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A4 判 1,500 字以内)
第 88 巻第 10 号 高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術（仮）	終了
11 号 農業水利施設における外来生物対策（仮）	終了
12 号 農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ—（仮）	終了
第 89 巻第 1 号 農業農村工学における ICT 利活用の現状と将来展望（仮）	終了
2 号 中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学（仮）	終了
3 号 地域資源の活用による中山間地域の地域活性化（仮）	9 月 15 日
4 号 With & Post・コロナ時代の農業・農村のあり方（仮）	10 月 15 日
5 号 農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策（仮）	11 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

第 89 巻第 3 号テーマ「地域資源の活用による中山間地域の地域活性化」(仮)

以前より、わが国の中山間地域では、人口減少と高齢化を大きな要因として、集落としての存在が限界になる地域などが増加しています。このままの状況では、山紫水明と形容され、土地、水や生物などの多様な地域資源を有する日本の中山間地域、すなわち「美しい日本の農村」は、耕作放棄地や廃屋が広がる荒廃した地域となってしまいます。一方、2020 年のはじめに発生した新型コロナウイルス感染症による世界的な物流停止はグローバル経済の危うさを顕在化させ、国内地域資源や地域経済の大切さを改めて思い知らされています。

また、中山間地域は、都市地域の上流域に位置するため、地域を支える重要な農地や林地さらには農業水利施設等の維持管理が困難になるなどの事例は、下流域に住む都市住民の防災上

の観点からも大きな問題です。このため、中山間地域の活性化や荒廃の防止は、わが国全体および貴重な地域資源の保全・継承にとって重要度の高い課題です。

農林水産省では農山漁村の活性化施策として、平成 19 年の「農山漁村活性化法」の施行、平成 28 年の農山漁村振興交付金制度の創設など、農山漁村の定住者確保、都市間交流を促進し、農山漁村地域の活性化、自立および維持発展を図るため、さまざまな取組みを推進しています。本小特集では、農山漁村活性化法が施行されて一定の年数が経過し、農山漁村振興交付金などを活用したさまざまな事例など、農山漁村に豊富に存在する地域資源を活用した農山漁村地域の地域活性化に関する報文を求めます。

第 89 巻第 4 号テーマ「With & Post・コロナ時代の農業・農村のあり方」(仮)

新型コロナウイルスの感染拡大により発出された緊急事態宣言は、農業や農村にも大きな影響を及ぼしました。外国人労働者・実習生の入国制限や帰国による担い手の大幅な不足および休校や営業自粛などによる農産物需要と農家収入の減少などは、これまで推進していた農業農村施策に急ブレーキをかけることとなってしまいました。この状況が長期化すればわが国の農業農村の衰退が急速に進む恐れがあります。

一方で人口密度が低い農村に新しい生活の拠点を定める動きも顕在化しており、都市部から農村への移住を後押しする地域政策なども生み出されています。

コロナ禍の下で急速に進んだテレワークは、都市から地方への人の流れを促し、農村の若者人口の増加、新たな担い手の確保や地域の活性化につながることも期待されます。また、インターネット通販の利用の急増は新たな農村と都市の関わりを生

み出すかもしれません。このような状況の中、視点を変えグローバルと反対のローカルから出発して社会を考え、地域でさまざまな循環とコミュニティを作っていく方向性が考えられます。

2020年3月に閣議決定された新たな食料・農業・農村基本計画では、特に農村振興に力点をおいた施策が示されています。これらに取り組むに当たり、課題はコロナ時代を踏まえた新たな農業・農村の姿をどのように描くかです。

第89巻第5号テーマ「農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策」(仮)

近年の洪水の激甚化を踏まえ、既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用できるよう、関係省庁の密接な連携の下、令和元年12月12日に「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針」(以下、「基本方針」という)が策定され、すべての既存ダムを対象に洪水調節機能の強化に向けた検証を行い、一級水系を対象に令和2年の出水期から新たな運用を開始するとともに、二級水系のダムについても、緊急性に応じて順次実行していくこととされました。その後、基本方針に基づき、令和2年5月末までに一級水系109水系のうちダムのある全99水系において治水協定の合意がはかられ、洪水調節機能の強化に向けた取り組みが開始されています。その直後の7月には、九州地方をはじめとする全国各地で梅雨前線による令和2年7月豪雨が発生し、関連する多くの事例や課題も浮き彫りにされたと考えられます。

今回の感染拡大は、現代の一極集中の社会構造の脆弱性を象徴する出来事であり、令和の時代はこれらを根本的に見直していく機会です。

With & Post・コロナ時代の農業・農村に対応した姿、持続的な振興を実現するため農業農村工学の課題と解決策に関する報文を広く募集します。

今回の取り組みでは、農業用ダムも対象になっています。しかし、ゲートレスダムが多くを占め、管理も土地改良区や市町村で委託管理されている場合が多いことから、事前放流の操作技術への新たな技術的対策が必要です。さらに、利水ダムでは、ダム水位を低下させるための放流施設も大容量なものは多くないと考えられます。農業用ダムの洪水調節機能などの公益的機能の発揮は重要な社会貢献である一方、社会的責任も重大であることから今後の具体的でかつ安全・確実な対応策について、ソフト(降雨予測、事前放流操作技術、水位低下後の貯水管理、AI利用など)・ハード(事前放流のための施設整備など)の両面から十分な技術検討が必要です。このことから、農業用ダムの洪水調節機能の発揮の事例紹介や事前放流を実施する課題とその対応策について、関連の報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター(IF)は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)

- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

- National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ **Editors** 11 カ国から 20 名
 - ・ **Editorial Advisors** 29 名
 - ・ **Chief Managing Editor**
Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural
Systems Engineering, Seoul National University, Korea
 - ・ **Managing Editors**
Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
 - Dr. Masayuki FUJIHARA**
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
 - Dr. Eunmi HONG**
School of Natural Resources and Environmental Science,
Kangwon National University, Korea
 - Dr. Toshiaki IIDA**
Graduate School of Agricultural and Life Science,
The University of Tokyo, Japan
 - Dr. Kuo-Wei LIAO**
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
 - Dr. Soji SHINDO**
Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022 年 6 月まで韓国担当)・ **Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural
Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000 円+税

学生会員 (院生含む) 4,500 円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第 69 回北海道支部研究発表会の開催 (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

**1. 日時**

令和 2 年 12 月 15 日 (火)

2. 会場

Web でのオンライン形式による実施

3. 研究発表申込み

発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と発表形式の希望 (口頭またはポスター) を E-mail, FAX または郵送にてお申し込みください。

発表申込みの締切は令和 2 年 11 月 2 日 (月) です。

発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は令和 2 年 11 月 20 日 (金) です。

4. 参加申込み

下記様式により、E-mail, FAX または郵送にてお申し込みください。

参加申込締切は令和 2 年 11 月 27 日 (金) です。

【申込様式】

所属機関

同上所在地

申込代表者

TEL

氏名	所属	備考

5. 発表・参加申込先

〒 060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当: 柏木淳一

E-mail : kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

TEL : 011-706-3641 FAX : 011-706-2494

6. 参加費用

学会会員は無料

非会員は研究発表会講演集代として 2,000 円

7. その他

実施要領については本誌および北海道支部ホームページにて

ご案内いたします。

第75回中国四国支部講演会ならびに第44回地方講習会の開催（第3報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、支部講演会・地方講習会について、Web上でのオンデマンド形式での開催を検討しております。開催方法の詳細については、今後検討の上、学会中国四国支部のホームページ(<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>)にてお知らせする予定です。以下の内容は現時点で検討されている内容です。内容には変更の可能性があるため、参加・発表を希望される方は今後ホームページに掲載される情報にご留意ください。

1. 日 時

2020年11月に一定期間開催（予定）

2. 参加方法・申込方法

学会中国四国支部のホームページにリンクされたオンライン支部講演会・地方講習会（以下、「オンライン支部会」という）のサイトを通じて、講演会・地方講習会への参加登録や発表等が可能となります。

(1) 参加申込方法

オンライン支部会のサイト（10月上旬開設予定）を通じ、参加申込みを受け付けます。参加登録が完了すると、サイトを通じて以下のようなサービスが提供される予定です。

- ・講演会の発表要旨のダウンロード、動画・ポスター等の視聴、コメントを通じた質疑応答
- ・地方講習会の動画の視聴

また、講演会での発表希望者については、サイトを通じて

- ・発表要旨のアップロード
- ・発表ファイル（動画・ポスターファイル等）のアップロード

などが行えます。

(2) 講演会での発表形式

以下の3通りでの発表を検討しております。

- i) 動画による発表：発表者は各自発表動画を作成（発表の様子を撮影、もしくは音声付きパワーポイントファイルを作成する等）し、その動画をオンライン支部会サイトにアップロードする。
- ii) ポスターによる発表：発表者はA0版のポスターに該当するポスターファイル(pdfファイル)を作成し、そのファイルをオンライン支部会サイトにアップロードする。
- iii) 要旨のみの発表：i) もしくはii) による発表が望ましいですが、発表ファイルの用意が難しい場合には要旨のみでの発表も受け付けます。ただし、要旨のみの発表の場合、支部賞（優秀賞・奨励賞）の審査からは除外されます。

(3) 参加費および支払い

参加費については現在検討中ですが、学生の参加費については無料とする予定です。参加費の支払いは申込サイトを通じて行われ、支払方法にはクレジットカード決済もしくは銀行振込が選択可能となる予定です。

(4) 参加・発表申込の期日

参加申込：10月上旬～11月上旬

発表申込：10月上旬～10月末

を予定しております。

3. 問合せ先

鳥取大学農学部 齊藤忠臣

〒680-8553 鳥取県鳥取市湖山町南4-101

TEL：0857-31-5391 FAX：0857-31-5347

E-mail：tadaomi@tottori-u.ac.jp

令和2年度九州沖縄支部大会の開催（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催方法および内容について

本誌第4号で、長崎市の会場で通常開催することとお知らせしておりました令和2年度九州沖縄支部大会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講演会・講習会のみでのWeb形式での開催に変更いたします。そのため、現地見学会・シンポジウムについては中止いたします。

2. 開催期間 2020年11月12日（木）～25日（水）

3. プログラム概要

- (1) 講演会
講演要旨集のWeb掲載による発表とします。
- (2) 講習会

開催内容および方法については、現在検討中です。

4. 支部大会参加申込方法

(1) 申込方法

「参加申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめの上、(4)の運営事務局あてにE-mailにてお申し込みください。参加申込書は、学会九州沖縄支部ホームページ(<http://jsidre.or.jp/kyusyu/>)からダウンロードにより入手してください。

- (2) 申込期限 2020年10月28日（水）
- (3) 参加費 無料
- (4) 参加申込先・問合せ先

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局
 長崎県農林部農村整備課技術情報班 平田, 箱崎
 〒 852-8022 長崎市尾上町 3-1
 TEL : 095-895-2968
 E-mail : nourin-e-nyu@pref.nagasaki.lg.jp

5. 講演発表申込方法

(1) 申込方法

学会九州沖縄支部ホームページに掲載している「支部講演会投稿票」に必要事項を記載の上、講演要旨を添えて、(3)の支部事務局あてにE-mailにて提出してください。受領確認もE-mailにて行います。

講演要旨については、2枚または4枚とします。詳細は、支部ホームページにて確認してください。

(2) 申込みおよび講演要旨締切日

2020年10月28日(水)

(3) 講演発表申込先・問合せ先

農業農村工学会九州沖縄支部事務局
 九州大学大学院農学研究院環境農学部門
 生産環境科学講座灌漑利水学研究室 谷口智之
 〒 819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744
 九州大学伊都キャンパスウエスト5号館 880号室
 TEL : 092-802-4611
 E-mail : taniguchi@bpes.kyushu-u.ac.jp

6. その他

今年度の講演会は、原則として講演要旨集のWeb掲載による発表となります。Web上での口頭発表(オンデマンド)やポスター発表を希望される方は、各自で動画ファイル等をWeb上に公開の上、講演要旨に公開URLを掲載してください。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment (PWE誌)」 購読料の値下げと購読者の大募集!!

PWE誌は、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されており、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。2018年のインパクトファクター(IF)は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌(オンラインジャーナル)としての位置づけがますます向上しています。

PWE誌を購読することは、農業農村工学を専門とする研究者・教育者が自らのidentityを確かなものにし、帰属する集団を自覚する役割を果たすものと認識しています。

PWE誌への投稿は投稿料、掲載料を無料としていますが、投稿者は学会員と同時に購読者であることが必要です。そこで、投稿者の負担を大きく軽減し、投稿しやすくしました。特に学生会員の支援強化のため、学生会員の購読料を大幅に値下げしました。

- ・ 会員・名誉会員：12,343円(消費税8%含む) ⇨ **9,000円+税**(約2割減)
- ・ 学生会員(院生含む)：8,743円(消費税8%含む) ⇨ **4,500円+税**(5割弱減)

PWE誌は水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生・陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

是非この機会に購読者になって国際デビューを果たしましょう。

